

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第103号

R5.12.23発行

岡林 う真

43年間破られていない
県記録への挑戦

広島の走幅跳の歴代記録を、どんどん抜いていきたい！



陸上人

未完の大器が国体初出場、初優勝

岡林弓真 男子走幅跳 広島翔洋高校 Okabayashi Yuma

プロフィール 岡林弓真(おかやし・ゆま) / 2005年(平成5年)7月3日生まれ・東広島市
2012年(平成24年)東広島市立寺西小学校入学→2018年(平成30年)東広島市立西条中学校入学→
2021年(令和3年)広島翔洋高校入学
2023年 かごしま国体2023 優勝 7m45(+0.9)

主な成績



チームの跳躍の前田先生(=義行・山陽高教)の助言もあって、迷わず攻めました。6本目はフォームも空中動作も“ぐちゃぐちゃ”で、着地の瞬間は“いかんな”と思ったのに7m45(+0.9)。あの感じで45なら、もっといけると思いました。将来的には日本選手権に出て一番を取れたらと思っているので、そのためには8mは跳ばないと勝負になりません。だから県記録を越えていきたいです。」

自他ともに認める得意の踏み切りを除いては、助走、空中動作、着地と全てが荒削りでのびしろ十分。長らく破られていない7m98の先へ、広島初の8mジャンパー誕生の期待が膨らむニューホープだ。

そんな岡林選手が走幅跳を始めたのは、西条中に入学してからだった。

「中学に入るまではレスリングをやっていたんです。走るのは幼稚園の頃から好きでした。幅を選んだのは得意だったとか特別な理由はなく先輩に誘われて何となる。自分で有名な選手の跳躍を動画で見て、それに近づけようという感じでやっています。」

あと1cmで決勝進出を逃したインターハイの結果からすると、国体ではダークホースの存在だったが、堂々たる試技内容で全国制覇した。1回目で公認の自己ベストを約20cm更新する7m44(+1.4)をマークしてトップに躍り出るとそこから一度もリードを許すことなく、最終跳躍を待たずに優勝を決めた。

「1本目は自分のなかでは助走もフォームも着地も完璧でした。2本目以降は広島



7m98——これは43年前、1980年に行われた織田記念陸上で吉本敏寿氏がマークした男子走幅跳の広島県記録である。昭和、平成と塗りかえられなかった偉大な記録の更新を、令和の今、意識している頼もしい選手が現れた。初めて出場した国体で初優勝した広島翔洋高校の岡林弓真(ゆま)選手だ。

あと1cmで決勝進出を逃したインターハイの結果からすると、国体ではダークホースの存在だったが、堂々たる試技内容で全国制覇した。1回目で公認の自己ベストを約20cm更新する7m44(+1.4)をマークしてトップに躍り出るとそこから一度もリードを許すことなく、最終跳躍を待たずに優勝を決めた。

「1本目は自分のなかでは助走もフォームも着地も完璧でした。2本目以降は広島



盤には追い風参考ではあるものの7m台を記録するようになった。

西条中と言えば中長距離の強豪校のため顧問の先生から跳躍指導を受けることはなかったというが、全体練習で陸上競技の基礎作りができた。さらに動画で見た動きを再現できてしまう潜在的なジャンパーの資質があった。学年毎に1mずつ記録を更新して、コロナ渦で試合数が限られた3年時には県通信3位6m14(+1.2)、U16県大会優勝6m42(+5.4)の結果を残している。

高校入学後は刈谷和広先生の教えの下、まずは長い目で見て競技をする上で土台となる走力の底上げを図った。「思っていた以上に走れず、本人も走るのは“勘弁して”みたいなところがあって。」と刈谷先生が振り返るように、走ることに意欲的になるには少々時間がかかる。ターニングポイントは高2秋の新人戦で初めて表彰台を逃した時。そこから走力の必



見たものを再現できる天才肌です。

刈谷 和広

私は短距離専門なものですから、県内の跳躍の先生方、高体連の先生方は本当に良く見ていただいて、とてもありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。跳躍練習は、彼のジャンプを常に撮影して、跳び終わったあとに、動画を確認する前に、本人に「どうだった?」と聞いて「こんな感じだったと思います。」と振り返ってもらって、そのギャップを埋めていく作業をしていました。客観的に見ている私と、主觀的な彼とのそれを埋めていくことで、感覚を一致させていたんです。とにかく凡人ではなくて天才肌なんですね。言ったことをすぐに、ある程度の形にできてしまうし、見たもの身體で表す能力も持っていますから、着地の部分を改善していくれば、まだいいけると思っています。助走スピードに関しては、100mの記録にこだわらずに、助走の距離をトップスピードで走れるようにということをやってきましたが、まだだけますね。

刈谷 和広



広島チーム最高!

天皇杯(男女):65点[13位]
皇后杯(女):39点[12位]

天皇杯(男女):65点[13位]
皇后杯(女):39点[12位]

燃ゆる感動

かごしま 国体・かごしま大会

特別国民体育大会

2023年10月7日(土)~10月17日(火)

特別全国障害者スポーツ大会

2023年10月28日(土)~10月30日(月)

年代別レポート

小体連

2023年の小学生のトラックシーズンも10月28日(土)の第35回広島県小学生総合体育大会陸上競技の部をもって幕を閉じた。小学生の大会で唯一男女別のチーム表彰があるこの大会で、今年度、男子はCHASKIが、女子は東広島TFCが総合優勝の栄誉を手にした。この大会では、以下のように大会記録が3つ誕生し、そのうち一つは、広島県記録であった。●6年男子100m 丸山翔大(CHASKI)12.44秒 ●5年女子走幅跳 伊藤朱璃(東広島TFC)4m33 ●男子4x100mR CHASKI-A 50.57秒(広島県新記録)この男子4x100mRは実に43年ぶりの新記録であり、最も古い県の小学生記録が塗り替えられた。このように、毎年、記録が少しずつ塗り替えられている。このことから、各学校・各チーム関係者の方々が、楽しく無理のないよう練習を工夫しながら、力を伸ばしてくださっていることが伺える。皆様に感謝したい。今後も陸上競技を好きな小学生が増えるように、関係の皆様と連携しながら取り組みを進めていきたい。

広島陸上競技協会 指導・普及委員会
広島県小学生体育連盟 陸上部長 中島 基



中体連

第50回全日本中学校陸上競技選手権大会を終えて
会場：愛媛ニンジニアスタジアム(松山市)
会期：8/22～25

今年度の全中は、松山市の愛媛ニンジニアスタジアムにて開催された。広島県選手団は、男女合わせ33名の選手が出席し、それぞれ健闘した。年々競技レベルが上がる中、入賞は男子100mで荒谷匠人(近大東広島)が7位に、女子100mでは三好美羽(神辺西)が、惜しくも同タイム着差ありで2位となったものの、昨年に続き大健闘した。また男子3000mでは、中西雄也(八木松)が6位に入賞した。いずれもハイレベルな記録を残した。全体的に入賞した記録のレベルが今大会は、各種目とも非常に高い大会となった。また今年度より、部活動の地域移行に向けて、クラブチームの参加が認められるなど、部活動の意義や在り方を見直されつつある。こうした中で、今後、選手の指導・強

化をどのように進めていくのかも大きな課題である。毎年、全中をはじめ各種大会で選手の支援のためにご尽力いただく陸協のジュニア強化部の先生方にも深く感謝したい。

広島県中体連

陸上競技専門 委員長 竹川 雄一



高体連

令和5年度の全国高校総体は、北海道で行われた。入場者の制限もなくなり、コロナ禍以前の様子が戻ってきた。広島県からは男子のべ37種目、女子のべ39種目へ出場した。男子では、5000mWに出場した舟入の中島壮一朗(2)が21分24秒01で第4位に、三段跳に出場した崇徳の鷲頭慶士(3)が15m31で第2位に、ハンマー投げに出場した西条農業の尾濱太陽(3)が61m60で第3位に入った。女子では、神辺旭の江原美月優(3)が200mで第2位に、400mで第4位に入賞した。広島皆実の桦山渚(3)が200mで第6位に、400mで第6位に入賞した。3000mに出席した世羅のローズ・ワングイ(2)が8分55秒02で第2位に、100mHに出場した神辺旭の綾目ひなの(3)が13秒92で第5位に、砲丸投に出場した西条農業の迫田明華(2)が13m15で第5位に、やり投に出場した宮島工業の網本玲菜(3)が47m81で第3位に入賞した。男子3名3種目、女子6名8種目の入賞と、近年では最高成績をあげた。令和7年度の広島インターハイに向けて選手の強化育成と普及の両輪で取り組み、活躍を期待したい。

広島県高体連陸上競技部 事務局長
尾道北高校 北風 慎哉

学生連盟

今年度の振り返り

今年は声出しによる応援が解禁されたということで各

校、応援にも熱が入っていたと感じた。今年度は広島で大きな大会が開催されることはありませんが、前年度と比べると学連としての活動は少なかった。そんな中でも印象に残った活動として広島県インカレ兼出雲駅伝予選会を挙げる。この大会は広島県学連と実業団が主体となって運営する大会だ。そのため、学生の方々には学生審判や補助員として大会運営に参加してもらった。私も大会の準備や補助員として、大会の成功を支えた。今回の活動により、今まで選手として出場するだけだった私は大会運営の苦労や学連に所属する学生によるサポートのありがたみを知ることになった。また、コロナ禍で開催できていなかった学連幹事会を開催できなかった。これは来年度への反省点といえる。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部

幹事長 中本 韋介

実業団連盟

当連盟では、10月22日(日)岡山県笠岡市にて、第61回広島県実業団駅伝競走大会を開催した。この大会は、岡山県社会人対抗駅伝競走大会と合同開催しており、広島、岡山合わせて15チームが出場し、熱い戦いを繰り広げた。1部のレースでは、2区でトップに立った中国電力Aが大会新記録で5年ぶり19回目の優勝を手にした。2部では初出場のトップギアAが、6区間中5区間で区間賞を獲得し、大会新記録で初優勝した。11月26日(日)には、クイーンズ駅伝が宮城県で開催され、エディオンが10位となった。また、11月12日(日)に世羅町で開催された中国実業団駅伝では、中国電力が大会新記録で連覇を果たし、2位マツダ、3位中電工、4位JFEスチールとなり、この4チームが2024年元旦に群馬県で開催されるニューアイヤー駅伝への出場権を獲得した。駅伝、マラソンでの広島県勢の更なる活躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟

山崎 亮平

マスターズ連盟

第44回全日本マスターズ陸上競技選手権山口大会

10月7日～9日の3日間、山口県山口市維新みらいふスタジアムで第44回全日本マスターズ陸上競技選手権山口大会が、山口陸上競技協会と山口マスターズ陸上のご尽力で4年振りに開催された。全国から1,600人あまりの選手が集まり、広島マスターズ陸上からは全国で4番目に多い90人が参加した。広島マスターズ陸上の選手は、3000m競歩M85(85～89歳のクラス)優勝の世羅繁治(86歳)さんを筆頭に、優勝者23人、2位16人、3位13人の素晴らしい成績を挙げた。会場では競技が終われば、相手を称えて握手、一緒に写真を撮る、メールを交換するなど、「競い、楽しむ」マスターズ陸上ならではの光景があちらこちらで見られた。

広島マスターズ陸上 事務局

澤田 孝弘



みんなでつなごう リレーフェスティバル2023 (リレフェス)

リレー 第107回 フェスティバル 日本陸上 TOKYO2023 JAAF Athletics Championships Relay Events

●会期:2023年10月7日(土)・8日(日) ●会場:国立競技場 ●主催:日本陸上競技連盟

男女ともに広島県記録(選抜)更新を目標に挑んだ全国大会で力走した。過去最高の走力と過去最高のチームワークで見事記録更新を達成した。女子は2年連続2位を勝ち取り、チーム広島の力を発揮することができた。



U16女子 4x100mR

記録: 46.80 2位

1	江原杏月芭	福山大門中(1年)
2	三好 美羽	福山神辺西中(2年)
3	下見 薫乃	福山鷹取中(3年)
4	河村 摂希	井口中(3年)

U16男子 4x100mR

予選記録: 42.32

1	武村 春	福山向丘中(3年)
2	荒谷 匠人	近大東広島中(3年)
3	鳥飼 翁太	戸坂中(3年)
4	上本 優	城山中(3年)

